豊庄だより

第 627 号 2020 年 8 月 17 日

福岡市早良区南庄２－２６－１３
社会福祉法人林生会豊庄保育園
園長　西尾　達

「93%が同じ」と批判された我が国首相のあいさつ文には本当にあきれてしまいました。今年のヒロシマとナガサキの平和式典における首相のあいさつ文のことです。「そんなことってあるの？」と思い、新聞に掲載されていた「全文」で比較してみました。「広島」と書かれているところを「長崎」と書き換えて・・・。そこは当然そうしなければなりませんが、その後、第 4 段落の表現の一部が違っているだけで、内容はほぼ一緒、「コピペ」でした。「93%」という数字は、コンピューターを使っての分析結果だそうです。

ほとんど同じものを読みながら、「これじゃちょっとまずいなあ」なんて思わなかったのでしょうか。当日の式典で読み上げられた市長や遺族代表や子どもたちの体験や想像力による言葉と比べ、気持ちが全く込められていない空疎なものと言わざるをえません。この文章は、おそらく官邸の誰かによる「作文」でしょうが、国民に、そして世界に向けて発した「あいさつ」ですから発言の内容は、読んだ人に責任はあります。

そんなことを考えながら、ふと以前読んだ青木理さんの『安倍三代』（朝日新聞出版）を思い出しました。この本には、安倍首相の父方の祖父・安倍寛のことが書かれています。安倍寛は戦争中、無謀な戦争に突き進んだ軍部と軍部出身の政権に公然と抗った政治家です。大政翼賛会に属さず、平和主義を貫いた稀有な国会議員（大政翼賛会の推薦を得ずに当選したのは安倍寛や三木武夫などわずかでした）で、安倍晋三首相の父安倍晋太郎は、終生誇りにしていたそうです。一方、安倍寛の孫・安倍晋三首相はどうだったかといえば、筋金入の反骨者だった祖父とは真逆の政治家だったことが本の中に数々登場します。その中から一つだけ紹介します。

2006 年飯倉校区人尊協フィールドワーク（浦上天主堂）

「寛さんがすごい人じゃったからみんな安倍家には一目置いて（選挙運動の支援などを）やったと思いますよ。このあたりの者で寛さんや晋太郎さんを悪く言うのはひとりもおらんでしょう。こんなことを言っては失礼だが、東京生まれ、東京育ちのボンボン。寛さんや晋太郎さんとじゃあ、全然違いますなあ」と安倍家の菩提寺（長安寺）の住職の言葉を載せています。

安倍首相の発した「あいさつ」で、いまでも印象に残っているのが、オリンピック招致のプレゼンテーションで述べられた「ザ シチュエーション イズ アンダー コントロール」です。「どこがアンダーコントロールなの？」と多くの国民が疑問を持ちましたが、このフレーズはインパクトがあり、「お・も・て・な・し」とこれで東京オリンピックの招致に成功した大きな要因になったといっても過言ではありません。原発による影響は 10 年近くたった現在も続いているのに、よくぞこんなことが言えたものだと思います。もちろん、この言葉も彼が自分で考えたのではないのでしょうが。

私も、「あいさつ」を求められることがありますが、自分で考え、自分の言葉で述べることに心がけています。広島で 8 月 6 日に話し、8 月 9 日には長崎で再び話す。たしかに大変なことと思います。しかし、平和に対する思いが少しでもあれば、「93%が同じ」にはならないと思います。最後に再び『安倍三代』から引用です。「世の不平等や不正義に疑問を覚え、あるいは、憤り、本来はこうあるべきだという理想のようなものを抱きつつ、それを実現したいという志を持つ者たちによって政治は目指されるものではないか。」著者の青木理は、こうした理想を持っていたのが祖父・安倍寛だったと述べています。※『安倍三代』は現在文庫本（朝日文庫）でも出版されています。文庫本には中島岳志さんの秀逸な解説がついています。